

～実践記録①～

1. 学校名：根羽村立義務教育学校根羽学園
2. 対 象：8年生（中学2年生） 生徒7名
3. 活動内容

(1) 活 動 名 「根羽杉のブランド化」

(2) 活動の目標

根羽杉を活用したものづくりや根羽杉を知ってもらうための活動を通して、木材に付加価値を付けて産業として自立できる林業にしていくことの必要性を理解し、自分たちにできる取り組みについて考えるとともに、未来の根羽村への願いを大切にしながら生活していくことができるようにする。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

相互性（関わりあっている） 連携性（互いに連携・協力すること）

②育成する資質・能力

他者と協力する力 未来像を予測して計画を立てる力

つながりを尊重する態度 コミュニケーションを行う力

(4) 関連する SDG s

11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう



(5) 活動の内容

①林業のことを知ろう

- ・村の森林組合を訪問し、丸太が板状の木材に加工されていく様子を見学する。
- ・東京で林業を営む会社についてのニュース記事を見て、なかなか儲けにつながらない林業の現状と、木工体験会を開いて人を呼び、自分だけのオリジナル家具を作ることによって儲かる林業にしていくという会社の工夫を知る。

②自分たちにできる取り組みを考えよう

- ・根羽の木材に付加価値を付けていくためのアイデアを考える。
- ・「木で何かを作ることによって根羽をPRし、根羽に貢献していきたい」、「自分たちで製品を作って、ロゴを入れることで木材に付加価値を付けていきたい」という願いをもつ。
- ・木工教室を開催している飯田市の工務店を訪問し、工務店の方の思いや工夫を知る。

③試作品とオリジナルロゴをつくらう

- ・森林組合からいただいた杉の端材を使ってものづくりをする。
- ・「多くの人に根羽をPRしたい」という願いに立ち返り、村内外のお店に置いていただき、使ってもらえるものを目標にもものづくりをする。
- ・一目で「根羽」と分かるロゴを考え、レーザープリンターを使って、試作品にロゴを入れる。

④つくったものを使ってもらおう



4. 活動の成果

生徒たちは、根羽村の特産品である根羽杉に着目し、根羽杉を多くの人に知ってもらい経済価値を高めていくことで、村の発展につなげることができると考えた。森林組合の工場見学では、学校の近くにあるが何をしているかよく分かっていなかった森林組合の仕事を直に見ることができ、根羽村の林業について知ることができた。工務店訪問では、ものづくりの楽しさを実感するとともに、建築材の端材を使ったものづくりのアイデアを得ることができた。そして、森林組合からいただいた端材を使ってものづくりを始め、自分たちでつくった根羽のロゴを入れた製品を作成することができた。燃やされるだけだった端材を、自分たちの手で誰かに使ってもらえる製品にすることができたことで、生徒たちは自分たちの活動が根羽杉の経済価値を高めることにつながるという自信をもち、今後の活動への意欲を高めることができた。

私たちは木工体験ができるイベントをした
 いているので、そのときは体験する人が
 楽しいと思うように工夫をしていきたいです。
 考えるときはどんな意味を込めるのかをみ
 んなで決めてから作りたいと思います。

私たちは総合の時間でものをつくったり、みん
 なにものづくりを体験してもらったりしたいと
 考えているので、みんなが楽しめ、心が温まるよ
 うな活動を考え、行っていきたいと思います。

5. 指導方法・体制の工夫

- ①村内の地域素材(杉) ②森林組合の方 ③工務店の方

～実践記録②～

1. 学校名： 根羽村立義務教育学校根羽学園

2. 対象： 3・4年生 13名

3. 活動内容

(1) 活動名

「自慢の根羽」

(2) 活動の目標

- ・自分たちの住む根羽村を探索し、その良さや特徴を知る。
- ・地域の人との関りを通して、根羽村の自慢できることで新聞づくりをする。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

多様性(多種多様な現象が起きていること) 連携性(互いに連携・協力すること)

②育成する資質・能力

他者と協力する力 つながりを尊重する態度

進んで参加する態度 コミュニケーションを行う力

(4) 関連するSDGs

11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさを守ろう



(5) 活動の内容

- ・根羽村に生息する「ネバタガカエル」がいる「カエル館」について調べ、実際に「カエル館」に行っ
て観察した。
- ・根羽川のきれいな水で泳いだり、生き物を探したりした。
- ・農家さんが都会の人に送っている「お野菜便」に、根羽村のPRをする新聞を作って入れた。
- ・地域の方にいろいろな野菜の作り方をインタビューして、新聞を作った。

4. 活動の成果

- ・都会の人から「お野菜便」に入れた新聞に対する感想をもらったことで、根羽村の良さを伝えるこ
うできたという達成感をもつことができた。度維持に、自分たちも改めて根羽村の良さを実感す
ることができた。
- ・根羽村の良さを実感することができた一方、根羽村の特色である「森林」を活用した学習につなげ
ることができなかった。子どもたちは「木材を加工してモノづくりをしたい」という願いをもっている
ので、来年度は「森林資源」を活用したモノづくりの学習をしていきたい。



5. 指導方法・体制の工夫

地域プロデューサー(杉山さん) 農家さん(片桐文子)